

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日（土）～14日（日）

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JR ホテルクレメント高松

ワークショップ 20	
企画名	鑑別診断を挙げない症例カンファレンス
日時	2017年5月13日（土） 16:45～18:15
会場	第10会場（JR ホテルクレメント高松 2F 小宴会場「雅」）
企画責任者	近藤 猛（名古屋大学医学部附属病院）
定員	36名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】 名古屋大学医学部附属病院総合診療科において診断困難例に用いられている診断的思考過程を体験することで、プライマリ・ケアの現場でよく出会う「よくある症状なのに原因がはっきりしない状況」にもこの考え方を活用していただくことを目指します。</p> <p>【概要】 症例カンファレンスではたくさん鑑別を挙げられていても、いざ患者さんを目の前にすると「鑑別診断が挙がらない」なんてことはありませんか？ また「鑑別診断はたくさん挙げたけれど、どれもそれらしく思えない」なんてことはありませんか？ 実はそんなとき「鑑別診断を挙げる」のとは違う思考過程が必要となってきます。名古屋大学医学部附属病院総合診療科には通常の検査では診断に至らなかった患者さんが数多く紹介されます。スタッフは日々そのような診断困難例に向き合い時には名前も知らない疾患も診断することが求められます。そんなスタッフが実際に行っている思考過程をみなさんに体験していただきます。 当日は診断に必要な思考過程についてミニレクチャーの後、小グループに分れて症例検討をします。それを通して自身の臨床における思考過程についても振り返って頂き、症例カンファレンスでよく用いられる鑑別診断とは異なる思考過程に気づき今後の臨床に活かしていただきたいと思います。</p>	